京都市美術館や京都会館，旧武徳殿，高等教育施設群をはじめとした近代建築群等を舞台として，日展等の展覧会や演劇公演などの芸術活動，武道大会等が行われている。また，これらを取り巻く町には，芸術や教育，武芸に関連する生業が多く存在している。

これらの施設群，町並み，営みが一体となり，文教地区としての風情を醸し出し，訪れる人々は，これらの施設群，町並み，営みを通し，京都が今なお伝統と進取の気風を持ち，文化・芸術，教育，武芸等の中心地のひとつであることを感じる。

ウ　古都の再生と文教地区の形成に見る歴史的風致

白河（岡崎・吉田）は，東山の山並みを背景に，１１００年にわたる都としての歴史を想い起こさせる平安神宮と，伝統を基盤とした新たな文化活動の拠点としての役割を担う京都市美術館等の数々の近代建築や山麓に形成された邸宅群が，ケヤキや桜の並木，疏水の流れ，また，そこで行われる伝統と革新の文化活動と一体となって，人工と自然とが融合する，独自の地域を作り出し，訪れる人々は文化の香りを楽しんでいる。

写真2-103-1　画廊と鳥居

写真2-103-2　良好な住宅群（谷川住宅群）

(2)　大都市を支えた地域

伝統と進取の気風に富んだ京都の商業・業務の特徴は，伝統的な産業と近代化産業が相互に刺激し合い交じり合いながら発展し，また大都市として古くから活発な消費活動が行われてきたことである。

この項では，東海道の西の起点に位置し，近世以降の商業・業務の中心地として,大都市を支えてきた三条通りを事例として，大都市を支えた地域の歴史的風致を示していく。

ア　具体事例

(ｱ) 三条通

図2-63　三条通

平安京の三条大路にほぼ該当する東西路で，天正１８年（１５９０）豊臣秀吉が三条大橋を架橋，近世には東海道の西の起点であり，高瀬川の船着場に近接しているなど，物流や情報が集まる地域として賑わった場所であり，京都の中心地として旅籠や両替商，飛脚問屋などが集積していた。こうした繁栄は明治期に継承され，公共建築，銀行，事務所，繊維関連の大商社，文化施設など近代建築が建ち並ぶ京都の中心商業・業務地として，脚光を浴びた地域である。

明治４５年（１９１２）に烏丸通が拡幅されると，次第に銀行や企業の事務所は烏丸通沿いに移転していったが，ビジネスセンターが移転することで，三条通には，多くの近代建築や町家等の伝統的店舗の混在した町並みが更新されることなく存続する結果となり，明治・大正期の面影を残す京都を代表する町並みが残されることになった。

現在，三条通は，歴史的な京町家や中には京都にはあまり見られない塗籠られた京町家，そして町家と比較すると圧倒的にヴォリュームの大きい近代洋風建築など，近世から現代にいたる各時代